

- 二十四、〔小林貞一〕金鐘遠（昭和六年）鴨綠江南岸地域に點在せる古期岩層の層位學的研究 地學雜誌 第四十三輯 四百十三頁
- 二十五、中村新太郎 始生代及び原生代 岩波地質及び古生物學講座 二十四頁
- 二十六、T. Kobayashi (1931) Study on the Ordovician Stratigraphy and Palaeontology of North Korea with Notes on the Ordovician Fossils of Shantung and Liautung. Bull. Geol. Surv. of Chosen, Vol. XI No. 1. p. 18.
- 二十七、市村 毅（大正十三年）黃海道黃州郡天柱面ノ鐵鑛床 朝鮮鑛業會誌 第七卷第一號
- 二十八、鶴川平八郎（昭和九年）朝鮮黃海道黃州郡天柱面の黃鐵鑛後の褐鐵鑛 地球第二十一卷第六號五十五頁

瀨又産 *Tellina salmonea* (Carpenter) に就て

（關東南部新生代化石群 其の二）

大炊御門經輝

- Tellina* (Peronidia) *salmonea* (Carpenter)
 (1864, *Mera salmonea* Carpenter, Brit. Assn. Adv. Sci., Rept. for 1863, p. 639.)
 1924. *Tellina* (Moerella) *salmonea*, Oldroyd, Univ. Wash. Publ. Puget Sound Biol. Sta., Vol. 4, p. 51, pl. 41, f. 3a, 3b.
 1930. *Tellina* (Moerella) *salmonea*, Arnold, Mem. Calif. Acad. Sci., Vol. 3, p. 157, pl. 13, f. 7.
 1931. *Tellina* (Moerella) *salmonea*, Grant & Gale, Mem. San Diego Soc. Nat. Hist.,

Vol. 1, p. 359.

1935. *Tellina* (*Peronidia*) *salmonea*, 木下虎一

郎, 諫早隆夫, 北海道産貝類目錄(第一報),

永産調査所報告第33冊, p. 17, pl. 13, f. 93.

產地 上總市原郡市東村瀬又の堰

殻は *Donax* 型で小さく、稍や脹れ、殻頂は

甚だしく

後方にある。

後端は短かく

圓い。前

背縁は斜

に直線状

で前端は

稍や尖り

腹縁は弧

状を呈す

る。殻の

表面は滑



瀬又産 *Tellina salmonea* (Carpenter) ×3

であるが粗に其心圓状の生長脈を刻む。彎入は長く、廣う。

本種は *Tellina* には珍しい形で、殻形は寧ろ *Donax* に近う。然し後端が圓く、側齒は不明瞭で、放射状の彫刻を缺き、殻縁が平滑な事に依り *Donax* と區別される。

化石種は奥尻島産現生種に全く一致するが、Arnold 及び Oldroyd の圖に比較すると幾分後端が長いが、是は local variation に依るものと思はれる、其の他の點に就ては兩氏の記載並に圖によく一致する。

測定の結果は次の通りである。

Valves	Height	Length	Thickness
right	10.5mm.	14.8mm.	3.4mm.
left	7.4mm.	12mm.	1.9mm.
left	6.8mm.	11mm.	1.7mm.
right	6.3mm.	9.8mm.	1.7mm.
left	4.8mm.	7.5mm.	1.3mm.

現生種は Aleutian Islands から San Pedro,

California に産し、本邦では千島、北海道、陸前から知られて居る。

本種の化石は北米では Upper and lower parts of the San Pablo formation (Miocene). Lower San Pedro series of Deadman Island; lower San Pedro fauna of Nob Hill cut, San Pedro (Pleistocene) から知られて居るが、本邦からは未だ報告されなかつた。

Gould の記載した *T. lubrica* (Proc. Bost. Soc. Nat. Hist., Vol. 8, p. 28, 1861; *Otia Conch.*, p. 167.) の模式産地は函館で、簡単な記載ではあるが Gould の貝は本種と同一のものではないかと云ふ疑は充分ある。何分記載が簡單で且つ圖が無い爲に直ちに同種異名と斷定することを憚るが、若し同一のものであれば出

版年月は Gould の方が先であるから同氏の名を用ひねばならない。

横山博士は Foss. Up. Musashino Kazusa & Shimofusa, 1922 に於て瀬又の堰・高田・高田の堰産の洪積世貝類化石二百十八種（瓣鰓類百種・掘足類四種・腹足類百十四種）を記載されたが、本種を報告されて居ないので、瀬又の堰化石群の中に本種の存することを此處に報告する次第である。

尙松下久道理學士の採集された佐渡澤根産化石の中にも瀬又産本種の化石と全く一致する標本のある事を附記する。

摺筆に當り種々御指導下さつた中村・横山・黒田諸先生に感謝の意を表する。